

向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会の開催について

1 向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会の設置

向島ニュータウンは昭和52(1977)年4月に入居が開始され、本年度で39年が経過し、全国の同時期に建設されたニュータウンと同様、人口減少、少子高齢化が急激に進行しており、地域全体の活力低下も見られる一方、市営住宅等施設では老朽化が進み、設備や仕様が時代に合わなくなっているところや有効活用が図れていないところなどが見受けられる状況にある。

しかしながら、向島ニュータウンは、本市において良好な住宅・住宅地を供給するために必要なインフラ整備が行われている住宅市街地であり、本市及び伏見区の人口を確保するためにこれらの社会資源を持続的に維持することが重要である。

1年早く入居が開始された本市におけるもう一つのニュータウンである洛西ニュータウンにおいては、約10年前の平成18(2006)年11月に、「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が策定され、いち早く、洛西ニュータウン創生推進委員会等の地域が主体となってまちづくり活動に取り組まれてきており、学区・地域を越えた連携や協力体制が構築されるに至っているが、人口減少、少子高齢化の進行に歯止めはかかっていない。

向島ニュータウンにおいては、これまでから各学区の自治会や各種団体をはじめとして、民生・児童委員協議会や社会福祉協議会(向島二ノ丸学区H26.6.29設立、向島藤ノ木学区H27.9.13再開)、医療機関・福祉施設、また向島駅前まちづくり協議会や京都文教大学(京都文教大学マイタウン向島)などにおいて学区・地域の活動が取り組まれており、また更には学区・地域を越えて連携した活動を行うための試み等もなされてきている。

これら状況を踏まえ、向島ニュータウンの活性化を目指し、今後どのようなまちづくりをすべきか、また、今後どのような取組を喫緊に、重点的に行う必要があるのかを、専門的な見地及び地域の住民や事業者の方々の立場から幅広く意見を求めながら検討し、下記2に掲げるビジョンとして取りまとめるため、「向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会」を設置する(開催は平成28年度中に4回を予定)。

2 向島ニュータウンまちづくりビジョンの取りまとめ

平成28年度中を目途に、以下のとおり取りまとめる。

(1) 対象年度

平成29年度から平成32年度まで(今後4年間)

(2) 対象地域

向島ニュータウン(ただし、向島学区・向島南学区と連携)

(3) 検討の視点

資料5のとおり

(4) 検討事項

まちづくりビジョンのうち、「取組の方針、取組項目、連携のあり方」などを上記検討会において検討することとし、「より具体的な内容(どの主体が、いつ、何をするのか)」については補助組織であるワーキンググループにおいて検討する。

(ワーキンググループの開催については、資料6のとおり)

参考

京都市住宅マスタープラン(京都市住宅生活基本計画)中間見直し(平成28年3月)においても、施策の新規項目として、「ニュータウンにおける団地再生・ストック活用の推進」が掲げられている。

(内容)

洛西ニュータウンや向島ニュータウン等については、市内全域と比較して少子高齢化が更に進行しています。

そのため、ニュータウン内のそれぞれの地域特性を踏まえる中で、市営住宅において若者世代向けにリノベーションを行い住戸の改善を図ることや、団地周辺の地域を含めたコミュニティの活性化を促進することなどにより、ニュータウン団地の再生を推進します。

以上